

「事業名:飯舘村環境放射線研修会」 2022年度補助事業の実績・成果

大阪大学 連携市町村:相馬郡飯舘村、双葉郡大熊町

**連携市町村との協定締結日:平成29年8月8日 現地拠点:相馬郡飯舘村草野小学校(1階家庭科室)
:令和3年6月4日(双葉郡大熊町)**

事業のポイント

大阪大学を中心とした全国の大学の文系理系、学年、国籍の枠にとらわれない多様な背景を持った学生が浜通り地域を訪れる。そこでは、自らの手を動かし環境放射線を測定することで福島の実情を自身の体験を通じて理解し、さらに地元の方との意見交換によって震災時の様子やそこからの復興の過程を知り、放射線による直接的な影響から派生した人文社会的問題を認識する。そして学生間の議論の中から復興に対して自分たちが出来ることを考え見つけ、「豊かな想像力を持ち、能動的に創造力を働かせ、問題解決に当たることができる」人材の育成を行うことを目的としている。

今年度の活動実績

研修会は放射線に関連した理学及び人文社会学両方の基礎知識を与えるための授業と、福島の被災地における現地研修からなる。授業は4月から8月初旬にかけて大阪大学で行い200名以上の学生が参加した。浜通り地区での現地研修は、8月21～26日、9月18～23日の2回行い、さらに活動の場を飯舘村と大熊町の2つに分け実施した。学生は大阪大学をはじめ海外の大学を含め16の大学から123名の参加があった。今年度も新型コロナウイルスの感染拡大のため制限された環境下であったが、野外環境での放射線測定などを通じて、参加学生らは福島県における放射線や放射性物質についての実態を肌で感じる事ができた。また福島第一原子力発電所や被災地の見学も行い現状をつぶさに見ることが出来た。さらに地元の方々との交流をおこない、三春町町長、大熊町町民の皆さんとの対話を通じて、事故当時の落胆や葛藤、時間が経ち未来を見据えた現在の考え方など、遠く離れた大阪では決して知ることができない地元の方々の感情を知ることができ、非常に意義深い時間となった。この研修会は大阪大学の正式な授業であり単位が与えられるようになっている。



今年度の成果

2022年度の特筆すべき成果の一つとしては、東南アジア(タイ・ベトナム・インドネシア)からの外国人の学生を研修に参加させたことである。外国人学生たちは本研修会に参加しながら、日本そして福島県に対してあまり前提となる知識が多くないにも関わらず、積極的に教育プログラムに参加をしてもらえ、自身達が思っていた原子力災害についてより理解を深めたり間違っていた知識に関してはアップデートができたことと喜んでた。また、日本語がほぼ話せなかったことから日本人学生が英語で研修会を行うことを半ば強いられる状況になっていたが、学生の対応能力は素晴らしく、十分に教育効果が得られたと思われる研修会であった。次年度も同様に招聘を考えているため、より一層の教育効果が双方にあるように様々なことを引き続き整備していく。それら以外にも、今年度は他大学が行うイベントともコラボレーションを行ったりと、大学間連携も進めることができ、この流れを今後も大事にしていきたい。